

平成30年度  
事業報告書

社会福祉法人 上田明照会

# 目 次

ページ

1～6	法 人
7～8	甘露保育園
9～11	蓮の音こども園
12～13	ともいき宝池慈光
14～15	ともいき宝池和順
16～17	ともいきライフ月影
18～19	ともいきライフ住吉
20～22	上田市母子寮
23～24	上田明照会グループホーム
25～26	相談支援センター ほっと

平成30年度 社会福祉法人 上田明照会 事業報告書

1. 理事会・評議員会等の開催状況

	開催年月日	出席人数	決議事項
理 事 会	I 平成30年5月25日	理事6名 監事2名	①定款変更について ②平成29年度事業報告について ③平成29年度決算報告について ④平成29年度監査報告について
	II 平成30年11月6日	理事6名 監事2名	①平成30年度第一次補正予算について ②育児休業等に関する規則及び介護休業等に関する規則の変更について ③評議員会の開催について ④会長の職務執行状況の報告について
	III 平成31年3月13日	理事6名 監事2名	①平成30年度第二次補正予算について ②2019年度(平成31年度)事業計画について ③2019年度(平成31年度)当初予算について ④就業規則、臨時職員等就業規則及び、給与規則施行細則の変更について ⑤運営規程の変更について ⑥施設長の異動について ⑦評議員会の開催について
評 議 員 会	I 平成30年6月11日 【定時評議員会】	評議員7名 理事6名 監事2名	①定款変更について ②平成29年度事業報告について ③平成29年度決算報告について ④平成29年度監査報告について
	II 平成30年11月15日	評議員7名 理事6名 監事2名	①平成30年度第二次補正予算について ②育児休業等に関する規則及び介護休業等に関する規則の変更について
	III 平成31年3月22日	評議員7名 理事6名 監事2名	①平成30年度第二次補正予算について ②2019年度(平成31年度)事業計画について ③2019年度(平成31年度)当初予算について ④就業規則、臨時職員等就業規則及び、給与規則施行細則の変更について ⑤運営規程の変更について ⑥施設長の異動について

[監事監査] 平成30年5月24日 平成29年度 事業監査

2. 評議員及び役員を選任・任期満了等について

任期満了者及び変更者なし。

## 平成30年度 法人重点項目の取り組みについて（報告）

### ① 創立百周年記念事業としての鍛冶町児童施設整備の完了と記念式典について

- ◎ 鍛冶町児童福祉施設竣工式及び蓮の音こども園内覧会の開催  
平成30年6月23日（土）に開催した。竣工式においては23名の法人役員や行政等の関係者を招待し、内覧会においては卒園児や近隣住民等の方たちが62名来訪された。
- ◎ 記念誌の発行  
平成30年6月22日（金）に完成し納品となった。『創立百年史』としてA4版の200ページ、1,000部を発行し、各関係機関等に贈呈を行った。
- ◎ 記念式典・祝賀会の開催  
平成30年9月16日（日）に上田高砂殿において開催した。記念式典においては、招待者と職員を含め160名以上の方たちにご出席いただいた。また、祝賀会においても、90名以上の方たちにご出席いただき、盛大に開催することができた。

### ② 101年目以降、10年間の「法人中長期計画の策定」の検討について

- ◎ 事業内容の精査  
各事業所を取り巻く環境は日々変化しており、社会から期待される役割も内容も多岐に渡っている。そのような状況下において、地域の福祉的ニーズを客観的に把握し、競合の中においても選択されるサービス提供主体となるためPDCAサイクルを用い、より発展した事業所運営に次年度以降も努めていく。
- ◎ 法人施設整備計画  
鍛冶町児童施設の施設整備を終え、今後も順次優先順位を検討しながら、必要な施設整備・修繕等を適宜計画的に実施していく。
- ◎ 人材育成と確保  
以下の項目通り、各種研修会等を実施した。
  - I 働きやすい職場作りの検討
  - II メンタルヘルス対策・・・各管理者との面談・相談の実施、研修会の開催
  - III 法人内研修
    - 階層別研修・・・新任職員研修2回（+翌年のフォローアップ研修1回）の開催
    - 中堅職員研修3回（+翌年のフォローアップ研修1回）の開催
    - 専門研修・・・応用行動分析等（集合研修、個別対応学習）研修会の開催
    - 事例検討会、虐待防止研修、救急救命講習の実施
  - IV その他  
人材確保（就職・採用情報サイトへの登録・学生実習生受け入れの在り方・養成校との連携等）を意識した取り組みを各事業所統一した見解で進めていく。

### ③ 法人理念・運営方針及び各事業所の重点項目について、より円滑に取り組むために各会議、委員会を組織し実行に移していく

- ◎ 会議・・・各会議は年間計画に基づき実施した。
  - I 法人経営会議
  - II 法人管理者会議
  - III 業務管理会議
- ◎ 委員会・・・各委員会は年間計画に基づき実施した。
  - I 百周年記念事業委員会
  - II 人材育成・研修委員会
  - III 要望・リスク管理委員会
  - IV 業務管理・第三者自己評価委員会
  - V 保健管理・食事サービス委員会
  - VI サービス管理委員会

委員会や研修は、経営サイドからの発信ばかりでなく、職員が自ら考え、考える際の指標とすべき法人理念や各事業所の目指す方針に基づくものであり、その計画の「視点・思考方法の共有」の理解がなされることが重要である。

特筆すべきは、2019、2020年度の2か年に全事業所が第三者評価受審に向けての具体的準備に入った。蓮の音こども園においては、法人ホームページに自己評価結果を公表した。

#### ④ 地域における公益的な取り組み（地域福祉への貢献活動として）

##### ◎ 平成30年度の活動方針

「地域における公益的な取り組みについて、さらに充実させる。」

上田明照会100年の理念・精神を受け継ぎ、地域の福祉課題のうち「貧困に関連する課題」について法人が有する専門的知識や機能を提供することを通じて地域貢献を行う。特に、子どもの貧困関連と大人の生活相談支援を中心に活動をすすめた。

##### ◎ 上田ともいき処としての活動内容

###### ① 「ともいき生活相談室」

生活全般の相談を通じて、相談者が個別に抱える生活上の悩みや課題を傾聴しつつ、その課題を整理し、改善・軽減するために必要な助言、場合によっては自立支援プログラムを用意し、関係機関と連携して具体的な支援を提供する。

この2年間の状況では、いわゆる「緊急生活レスキュー」としての支援（寝場所なし、所持金なし、保険証なし等の方の緊急受入）が2件あった。

行政の支援を待っている間に合わない事例を対象とし、その日から支援を開始するものであり、関係機関と連携して2件とも4～5ヶ月の支援の結果、就労とともにアパートでの生活を開始できることとなった。

受け入れは、生活の拠点を用意し、アルバイトとして賃金を支払い生活の立て直しを支援した。今後も継続して行っていく。

###### ② 「こどもカフェ・英師館」（子どもの居場所づくり・無料学習塾・こども食堂）

子どもの貧困関連の支援として実施している「こどもカフェ」活動は3年目に入り、6～7人に1人が相対的貧困状態にある状況で、学習支援や食事支援は小さな取り組みであるが、大きな意義がある。従前に続き毎週火曜日と木曜日に実施し、一人親家庭の子どもを中心に受け入れるものだが、貧困にあるか否かを問わず広く受け入れをしてきた。

##### ○実施回数及び参加人数

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施回数	火曜	4	5	3	5	3	4	5	4	4	3	4	2	46
	木曜	4	3	4	3	4	4	4	5	3	4	4	3	45
子ども	火曜	10	18	15	23	8	16	24	17	17	15	24	12	199
	木曜	37	27	36	21	34	28	31	33	25	23	24	19	338
見学 保護者等	火曜	0	4	5	1	1	4	0	0	0	0	1	0	16
	木曜	15	10	22	9	8	19	7	6	3	5	3	4	111
参加人数計		62	59	78	54	51	67	62	56	45	43	52	35	664

- 1) 利用状況：火曜日は北小学校の小学生が下校時に立ち寄る形での利用だった。木曜日は上田市母子寮の在寮児、退所児が利用した。
- 2) ボランティア：木曜日は活動初期からの2名に引き続き協力いただいたが、後半に転居されるということで1名体制となった。子どもたちは「自分たちの為に陰ながら支援してくださった」ことを知り、感謝の気持ちを持つなど良い経験になった。11月～3月には、高校3年生の男子が不定期でボランティアに入り、本人にとっても良い経験になったようで、保護者からもお礼の言葉をいただいた。
- 3) 送迎等：火曜日は基本的に一人で歩いてこれる小学生を対象にしているが、例外的に冬季の暗い中を一人で帰すことの心配もあり送迎対応も行った。木曜日は東小学校区域の子どもが中心で、時間的にも距離的にも送迎が必要であり対応した。食材等についてはフードバンクからの提供食品を有効活用して食事の提供を実施した。
- 4) 関連活動：信州こどもカフェ上田地域プラットフォームの会議（世話人会等）及び、同研修会に計5回参加した。

③ 気まぐれ屋

「利用者の活躍できる場」をテーマにスタートして4年目に入った。30年度は、その拠点を鍛冶町から新田に移し「気まぐれ屋新田」として再スタートした。特に、新田事業所の利用者が店舗でお客様の接客をしたり、機織りを中心とした手芸活動を通して大きな効果が出てきた。次年度は「気まぐれ屋住吉」をスタートし、木工を中心に利用者が活躍できる場を目指して準備しているところである。

④ 震災避難者等支援室

2011年3月の東日本大震災直後の支援活動を機にスタートした上田ともいき処の活動は8年目に入り、現在の「法人としての公益的取り組み」のきっかけにもなった。当初の生活用品や食品の提供活動から、当事者グループ活動の支援やデトックスのための「保養滞在」受け入れ支援に変わってきている。震災から9年目に入った今、上田市に避難・移住されている世帯は35世帯・102名がいる。地道ではあるが、支援等が必要とされるかぎり継続していく。

⑤ 震災支援室の活動

1) 主な活動

月日	内 容	参加		場 所	主 催
		世帯	人数		
4/24	第1回上田市東日本大震災避難者支援実行委員会			上田市役所	実行委員会
7/8	避難・移住者交流会	7	21	上田明照会交流サロン	上田ともいき処
7/27	第2回上田市東日本大震災避難者支援実行委員会			上田市役所	実行委員会
8/5	第31回信州上田花火大会	13	48	千曲川河川敷	実行委員会 他
9/29	ふれあいバスツアー	6	22	上越水族館	実行委員会、上田ともいき処
12/22	クリスマス交流会	3	12	別所温泉あいそめの湯	実行委員会 他
1/20	新年会・おもちつき	5	14	上田明照会交流サロン	上田ともいき処
1/28	第3回上田市東日本大震災避難者支援実行委員会			上田市役所	実行委員会
2/16	スノーレクリエーション	5	23	菅平高原	実行委員会、さなだスポーツクラブ 他

2) 保養滞在の受け入れ

受け入れ世帯	実人数	延べ人数	受け入れ拠点
7世帯	25人	150人	大久保ハウス 他

⑥ フードドライブ

主催のNPO法人フードドライブ信州（長野市）と連携し、上田ともいき処が共催としての活動が3年目に入り、上田市・上田市社会福祉協議会・労福協ながの・東御市・東御市社会福祉協議会・NPO法人ワーカーズコーポと連携して毎月第1土曜日を基本に「ひとまちげんき健康プラザうえだ」で開催した。

集まった食品を分類（種類・賞味期限等）し、交流サロンにて保管・管理をしている。相談機関（行政・まいさぼ等）を経由して必要な人に個別配布するとともに、上田ともいき処としても配布している。また、グループホーム等の福祉施設や「こども食堂」を行っている団体にも提供している。

県内4か所のフードドライブ拠点のうち、上田ともいき処の集量が最も多い実績となっていることは、市民や食品製造関係企業からの提供が大きく、関心度も高い結果といえる。

1) スタッフ・応援団体

上田明照会 ともいき処 他	7名	NPO法人フード バンク信州	1名	上田市福祉課	1名	上田市子育て 子育て支援課	1名	計 14名/回
上田市社協 まいさぼ上田	1名	東御市社協 まいさぼ東御	1名	NPO法人ワーカーズコー ポ 上田営業所	1名	上小労働者 福祉協議会	1名	

2) 協力団体による応援開催

開催団体	開催時期	提供先
上田城南ライオンズクラブ	11月開催	上田ともいき処へ
上田商工会議所女性部	12月開催	上田市社協へ

⑥ フードドライブ続き

3) 大量・多数の寄贈者

前山桔梗の会	89個	上田千曲高校 シニア大学上小学部	94個	上田信州 コミュニティ協会	175個	カゴメ(株)	240個
労金丸子支店 運営委員会	121個	立科町 社会福祉協議会	119個	坂城町役場	735個	山印(株)	127個
株式会社なの麺工房	1500個	東御市くらしの会	115個	中部電力(株)	183個	個人・6名	1032個

4) 平成30年度 フードドライブ寄贈データ

	定例開催			定例以外			計			備考	
	寄贈者 (人)	米 (kg)	食品 (個)	寄贈者 (人)	米 (kg)	食品 (個)	寄贈者 (人)	米 (kg)	食品 (個)		
4月	12	321.0	284	5	13.0	998	17	334.0	1282	てととと市・上田市環境フェア	
5月	22	168.5	347	2	120.0	21	24	288.5	368		
6月	14	5.0	149	5	110.0	46	19	115.0	195		
7月	21	0.0	298	6	44.0	155	27	44.0	453		
8月	16	52.0	167	6	43.0	249	22	95.0	416		
9月	37	98.5	572	4	0.0	48	41	98.5	620		
10月	24	127.5	313	36	233.0	310	60	360.5	623		
11月	21	194.5	231	6	255.0	2141	27	449.5	2372		
12月	28	234.0	221	15	58.0	1153	43	292.0	1374		
1月	20	40.0	229	8	18.0	275	28	58.0	504		上田商工会議所女性部
2月	36	157.0	495	5	53.5	1759	41	210.5	2254		
3月	33	201.0	617	4	20.0	748	37	221.0	1365		
計	284	1599.0	3923	102	967.5	7903	386	2566.5	11826		

5) 平成30年度 食品寄贈先一覧

行政・相談機関

上田市子育て育ち支援課	46
上田保健福祉事務所	44
上田市社協・まいさぼ上田	1824
東御市社協・まいさぼ東御	716
坂城町役場	75
労協ながの	53
まいさぼ信州長野	75
フードバンク信州	606
計	3439

こども食堂

上田地域プラットホーム	24
みんなの居場所おじり	263
おけまる食堂	424
気まぐれ屋	26
こどもカフェ・英師館	385
にじいろカフェ	70
みんなの居場所なかんじょ	62
みまき福祉会	34
みんなおしおだ食堂	146
子どもプロジェクト	1
滋野里づくりの会	1
計	1436

廃棄処分

廃棄・その他	126
--------	-----

福祉施設

上田悠生寮	135
原峠保養所	115
ちいさがた福祉会	81
まるこ福祉会	675
やまびこ舎	70
ともいき宝池慈光	99
ともいき宝池和順	62
ともいきライフ住吉・ともいき処	340
ともいきライフ月影	123
GHアミティエ	45
GHせせらぎの家	83
GHひだまり	120
南日名アップルハウス	26
上田明照会グループホーム	174
上田悠生寮グループホーム	66
フォーレスト	120
八木沢ハイツグループホーム	116
計	2450

個人等

上田市母子寮入所者	1641
母子家庭（上田市内）	786
一人暮らし・経済困窮	178
計	2605

※廃棄の理由は賞味期限切れであったり、カビや虫によるものである。廃棄処分となったもののうち他の用途として使用できるものについては、関係機関や法人事業所に引き取ってもらっている。具体例としては、お米の廃棄分は上田市民の森で飼育動物のエサとして活用されている。

◎ 相談機関・機能としての活動内容

① 心の相談室「ハート」

平成30年度 心理療法等の実施件数 (上田市母子寮分再掲)

\月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
心理療法	個別療法	8	11	14	16	9	8	9	9	6	6	4	5	105
	SST(個別・Gr)	1	6	7	4	3	5	2	4	6	4	7	0	49
生活場面面接		22	23	32	42	23	22	22	28	18	26	16	20	294
心理検査		2	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	7
施設職員等への助言		4	4	4	4	3	3	0	4	3	4	4	4	41
処遇検討会議への出席		1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
その他・学習支援・集団活動		5	2	8	9	9	4	1	3	3	1	4	2	51
計		43	47	65	76	48	42	34	50	36	41	35	33	550
他機関への紹介・情報提供		1	1	1	3	0	1	1	2	0	1	2	1	14

(外来部門)

\月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
心理療法		2	2	3	3	1	4	2	2	3	4	2	2	30
検査・その他		0	0	0	0	2	1	0	1	0	1	0	0	5
他機関への紹介・情報提供		0	0	0	0	1	3	0	0	1	1	0	0	6
法人内コンサルテーション		2	2	2	2	2	2	1	2	1	1	3	6	26
計		4	4	5	5	6	10	3	5	5	7	5	8	67

(詳細)

「外来」

- 1) 外来来談ケース：A(小学6年女児)に隔週1回継続中…2年生から継続利用のケースでしばらく安定していたが、思春期を迎えて課題が出てきており、予断を許さない状況。  
B:(成人女性)に2～3ヶ月に1回継続中…発達障がいがあると思われる子どもを持つ親への継続相談。親の心配は尽きないが、子どもは高校を無事卒業して専門学校へ進学し親から離れた。今後は必要に応じて相談を受けていく。
- 2) 心理検査：発達検査(WISC-IV)を1件実施。

「法人内施設との連携業務」

- 1) 甘露保育園・蓮の音こども園
    - ①発達検査(K式2件、WISC-IV1件)を3件実施。
    - ②その他…情報交換、応用行動分析継続研修(コンサルテーション)2～3月に実施。
  - 2) 上田市母子寮
    - ①個別心理療法(継続ケース)として、加算対象となる14ケース(個別面談、プレイセラピー、生活場面面接、SST)を実施した。また、加算対象以外の母子や年度途中の入所者に対して必要に応じて実施。
    - ②集団活動として、小学生SSTをペアまたは個別での実施や、表現活動を毎週土曜日の午前中を基本にし、習字、絵、色遊び、工作等を必要に応じて実施。
    - ③学習支援は小中学生に対して随時実施。
    - ④生活場面面接は必要に応じて随時実施。
    - ⑤心理検査は7件(K式、WISC-IV、描画、質問紙)を実施。
    - ⑥カフェは土曜日や日曜日の午後を利用して不定期での実施。
    - ⑦その他としては、遊びや生活支援、子どもの預り支援、行事参加、職員会出席、退所者アフターケア、関係者会議出席、関係機関との連携、必要書類の作成、スタッフへの助言・提案等を実施。
  - 3) その他事業所：各事業所からの要請に応じて随時実施。
- ② 発達・育児相談室「ロータス」は蓮の音こども園事業報告に記載。
  - ③ 相談支援センター「ほっと」はほっと事業報告書に記載。



平成30年度 甘露保育園 事業報告書

1. 施設の構成 定員 90名

《職員》 園長 主査 主任 保育士 看護師 栄養士 調理員等

2. 月別開園日数及び初日在籍人員

月	開園日数	在籍園児数				合計
		4歳以上児	3歳児	3歳未満児	0歳児	
4	24	42	21	37	3	103
5	24	42	20	36	3	101
6	26	42	20	36	5	103
7	25	42	20	36	6	104
8	22	42	20	38	6	106
9	23	41	20	39	7	107
10	26	41	20	39	7	107
11	24	41	20	40	7	108
12	23	41	20	39	7	107
1	23	41	20	39	6	106
2	23	41	20	39	6	106
3	26	41	20	39	6	106
計	289	497	241	457	69	1,264

市町村別内訳 上田市 1,263人  
(県外) 栃木県栃木市 1人

3. 年間行事等実施状況

月	内 容
4	入園式・家庭訪問・上田仏教会花まつり(年長)・花見散歩
5	花まつり・親子遠足(小諸懐古園) さつま芋苗植え交流(年長)(ともいきライフ住吉)
6	交通安全教室・プール開き・保護者会作業・鍛冶町施設竣工式
7	七夕まつり・アクアプラザ水遊び(年長)・夏まつり 地域交流事業(ピアノ・バイオリン・琴・うたのコンサート)
8	魂まつり・1期終業式・プール参観(幼児組)
9	保育参観試食会(2歳)・祖父母参観・保護者会作業・運動会・百周年記念事業
10	秋の遠足(上田創造館・ふるさと公園あおき・ともいきライフ住吉・国分寺公園・上田城址公園) さつま芋掘り交流(年長)(ともいきライフ住吉)
11	保育参観(幼児組)・感謝訪問(勤労感謝)・子育て応援講演会・七五三
12	成道会・成道会お祝い発表会・防犯訓練・もちつき会・クリスマス会 個別懇談会(年長)・2期終業式
1	ものづくり・どんど焼き・個別懇談会(幼児組・1歳児)・保育参観(0、1歳児)
2	豆まき会・涅槃会・懇談会(2歳児)・新入児連絡会
3	ひな祭り・お別れ会・懇談懇親会(年長)・3期終業式・卒園式

毎月・・・誕生会・避難訓練・身体測定

※9月～12月・・・保育参加(希望の保護者30名参加あり)

4. 職員研修

県及び市保育園連盟主催、私立保育園協会主催各種研修会  
法人内研修会

5. 施設整備

園舎外構工事(4月～6月)

6月23日 鍛冶町児童施設竣工式

## 6. 援助結果及び課題

### ① 保育

#### I 子どもの遊びが発展する環境づくり

年度途中(30年6月)より、園庭が完全使用できるようになった。登園後も園庭を開放し、芝山の登り降り、芝そり、砂場で遊び込むことができた。未満児も広いテラスにおいて遊具で遊び、時には音楽遊びもテラスで行った。園舎内では保育室の物理的構成の工夫や廊下をも保育の場として想定した環境、蓮の音こども園の感覚統合室の利用など、保育環境は劇的に好転している。子どもの主体性を大切にする環境とは何かを保育士間で柔軟に考え合いながら、子どもがとことん遊び込める環境保育の内容について議論を深めていきたい。

#### II インクルーシブ保育

発達支援保育室で把握している発達課題を持つ園児は16%(17名/106名)であった。各クラスに在籍している個別支援を要する子どもたちへの保育を園全体として理解していくために、文書化することで共有を図った。30年度はこすもす組(2歳児)に蓮の音こども園の園児3名と職員1名が日常的に入り、ともに育ち合ってきた。子ども同士の関わりはさることながら双方の保育士にとっても良い学びの機会となった。事例検討会や甘露保育園・蓮の音こども園の新任職員同士の週1回を基本とした交換研修等を通じて、知識・技術のスキルアップに取り組んできた。

### ② 家族支援

保育園では家族の就労の状況によっては、家族との十分な関わりを持つことが難しい側面があるが、個々の状況にあわせて可能な限り連絡を密に持てるよう努めてきた。特に家族と共有しておきたい内容については、現場の保育士のみならず、保健・給食の職員も交え、こどもの育ちに必要な事柄を整理し、丁寧な伝達を心がけてきた。若い保育士も多いことから、様々な面で園全体のサポート体制を構築し、保護者も保育士も互いに信頼に基づく高め合いが求められる。初めての試みであった保育参加にも30家族が参加し、実際の保育の様子を通じ、日々子どもが体験する保育を知っていただき、保育園が目指す方向についての理解促進に役立った。

### ③ 食育

当日提供される給食の食材の玉ねぎやとうもろこしの皮むきをしたり、食材を見たり触れたりする機会を毎日取り入れ、食に対する興味や関心を広げてきた。子どもたちは園庭の畑や住吉での畑活動を通して、作物が育っていく過程に驚きを感じていた。今の保育士が、農作業に対して興味をそそるような働きかけができるスキルが不足していることは否めない。食べること=楽しいこと、となる事を基本に、様々な面から子どもの心を揺さぶり、食体験を深めていきたい。

### ④ 地域との関わり

未就園児親子の広場を年間9回開催し、平均約10組が参加した。延べ40家族が参加し、そのうち17名が新入園につながった。園で定期的で開催している「ざしきわらしの会」による絵本の読み聞かせを在園児とともに聞き、時にはクラス活動に参加する機会を作り、地域の子どもと園の子どものふれあいの機会を意図的に設けてきた。その他に地域のボランティア(先輩保育士2名)には、0歳児保育に参加していただき、園児にとって満たされた時間の提供ができています。今後は、保育所として地域に開かれた園の役割についての議論は園内で十分にできていないため、今後検討を進めていく。

～全体を通して～

改訂保育所保育指針の施行により、保育内容や保育の在り方について、ある一定の方向転換を求められる年となった。保育士間で学習を進め試行錯誤しながら、今後の園運営の目標や進むべき方向について見直していく時を迎えている。園を取り巻く社会環境や地域のニーズの変化を捉えながら、地域から必要とされる園となるために、議論を重ねる。

平成30年度 蓮の音こども園 事業報告書

1. 施設の構成 定員 30名

《職員》 園長 副園長・児童発達支援管理責任者 主任 保育士・児童指導員  
作業療法士 管理栄養士 看護師 調理員

2. 入園児地区別利用契約人員及び療育日数

市町村	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420
坂城町	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
その他	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
合計	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480
実開園日数	21	24	25	25	22	21	26	23	23	21	21	20	272

3. 入退園の状況

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入園	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
退園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	16
退園理由	保育園(他事業所等)移行 7名 就学 9名												

4. 通園車走行状況

1号車(セレナ) 3,241km  
2号車(リバティ) 5,430km

5. 年間行事実施状況

月	内 容	月	内 容
4	入園式 親子遠足	10	合同避難訓練
5	運動会 花まつり 家庭訪問	11	どろんこ祭 上田ライオンズ交流会 七五三 防災訓練
6	家族参観 プール活動 新園舎竣工式	12	クリスマス会 成道会
7	七夕 家族参観 防犯訓練	1	新年会 どんど焼き ももたろう展 家族参観
8	魂まつり 父親懇親会	2	豆まき 涅槃会 家族参観 バイキング給食
9	母親懇親会 親子遠足	3	ひな祭り お楽しみ会 卒園式

避難訓練：毎月

6. 職員研修等

法人内研修：新任研修・中堅職員フォロー研修・虐待防止研修会・応用行動分析  
施設内研修：事例検討会・虐待防止、権利擁護伝達研修・児童発達支援ガイドライン学習会  
施設外研修：上小地区心身障害児者施設連絡協議会「代表者会」「主任者会」・てんかん講座  
地域自立支援協議会「発達専門部会」・日本知的障害福祉協会研修会・発達協会  
苦情対応システム研修・朝日新聞厚生文化事業団 朝日夏季保育大学  
うめだ、あけぼの学園セミナー・全国児童発達支援事業協議会  
強度行動障害支援者養成研修(基礎研修・実践研修)・上田市子ども子育て研修会  
児童発達支援管理責任者研修

7. 施設整備

蓮の音こども園新園舎建設

## 8. 療育援助結果及び課題

### ① 発達支援

平成30年度の傾向は、全園児の76%が発達障がいの確定診断を持ち、未診断の5%を含めると80%以上の児童に特性に配慮した支援が必要となった。年齢的には未満児が例年より多く在籍し17.5%を占め、所属クラスにおいては安全への見守りと、行動や気持ちを言語化しながら関わる支援が必要となっていたため個別性が高くなった。その中で、不安感や周囲の環境に影響されやすい特性を持った児童に対しては、安心を感じられる環境と関わりを基盤とし、子どもの行動の意味や発信を理解し共感してきた。支援は「クラス集団」としての一斉活動になりやすいため、個々の強みを生かせるよう個別と集団の活動バランスを調整しながら、より認知面や社会的スキルを学べる支援を検討、展開していく必要がある。今年度に完成した新園舎においては、子どもが楽しく自信を持って取り組める環境がたくさんあり、保育集団での生活や、環境の利点を活かした運動面からのプログラムが広く実践できたことは大変有意義であったと感じている。

### ② 家族支援

保護者は、子どもの成長に対して期待感と不安感の両方を抱え、揺れ動く心情を抑えきれないことが多い。子どもの得意、不得意な領域に差があることで、できないことに対する焦りを感じやすい。連絡帳を通して日々の様子を細かく伝え、必要に応じた個別面談、母子通園、訓練への同席を設定してきた。毎月の所見を通して、目標に対しての進捗度を確認、共有してきた。事業所内での学習会や保護者会の活動も横のつながりとして良い情報収集の場となっている。園生活でできたことを家庭において同じ方法で取り組むことや、家庭で母とできたことを職員が支援に取り入れることが効果的であると確認ができた。家族との日々のコミュニケーションが非常に重要であると改めて感じている。在園期間にもよるが、子どもの成長を実感できるようになるまでは、ある程度時間の経過が必要なため丁寧に寄り添い続けることが重要となる。個別としては、母親の精神疾患により家庭支援の調整が必要なケースや、夫婦間のトラブルにより家庭養育が限界に近く、関係機関との調整が頻回なケースもあった。今後も保護者の養育力に応じた対応が求められる。

### ③ 地域生活支援

児童発達支援センターが子どもの支援にとって機能的な機関であることの理解を推進し、支援を必要としている子どもの療育体験の場である【のびのび教室】の受け入れや、地域生活への移行の時期に関係機関と連絡・調整を重ね支援している。また、当園を研修の場として支援者の資質向上及び、双方の情報交換の場としての役割を果たしてきた。今後も各種機関との関係を深めていきたい。

## 9. 療育サービス等の利用状況について

### ① おもちゃ図書館

- ・移動おもちゃ図書館(甘露保育園遊戯室:年7回開催)

⇒ 来館者 365名 ボランティア 38名

- ・青木村図書館への派遣(年2回開催) ⇒ 来館者 71名 ボランティア 10名

### ② 療育相談 … S T 外来相談/8名 O T 外来相談/1名

### ③ あそび虫 … 年9回開催 子ども 101名 大人 101名

### ④ のびのび教室 … 年26回開催 参加児数 135名

～全体を通して～

自己評価及び保護者の事業所評価が義務化となり、結果をホームページに公表した。それを踏まえ課題に対して具体的な取り組みを深めていかなければならない。指針となる【児童発達支援ガイドライン】より求められている「子どもの最善の利益」についての理解を深め、子どもの意思を尊重していくことにより、主体的な活動ができるよう支援を展開していく。さらに、各クラス運営の中で実践的に計画できるようにしていく。

1. 構成  
 《職員》 管理者 児童発達支援管理責任者 訪問支援員

2. 訪問先  
 上田市公立保育園 (2) 上田市内私立幼稚園 (1)  
 上田市内私立幼稚園 (3) その他公立保育園 (1) 計 7ヶ所・8名

3. 支援実施日数及び実施人員

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
公立保育園	0	0	1	3	0	2	2	1	0	1	1	0	11
私立幼稚園	0	0	1	4	0	4	3	3	2	0	3	0	20
私立保育園	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3

計34回

4. 訪問支援結果と課題

① 地域における子どもの発達支援

今年度は卒園した児童のフォロー1名と前年度にのびのび教室を利用した児童を含む8名に対しての実施となった。卒園児については、在園中より地元保育園との交流を重ね、保育園の理解を得ることができた。移行当初は母親の不安感も強く、訪問支援事業は母親の精神的な支えにもなっていたが、その後、保育園側の適切な支援により適応することができたため早めの終結となった。各園では、支援が必要となる児童が増えてきているという現状に対し、十分に対応できる職員の確保が難しい状態だった。その中で加配保育士は、対象児の身の回りの行動の一つひとつ声掛けや介助が必要な場面が多かった。ある園では、訪問とカンファレンスの体制を取ることが難しいことや、園側の教育方針を発達支援とのすり合わせができないため負担感を感じるとの理由から支援途中での終結となり、行政からのフォローのみとなったケースもあった。これは、保護者の思いが置き去りになってしまうケースともいえる。利用児の進路としては、私立保育園から公立保育園への転園が2名、公立保育園と私立幼稚園から1名ずつ蓮の音こども園へ移行となった。

② 地域支援機能強化と関係機関との連携

相談支援専門員によりケア会議が進められ、保護者を含め各園、行政、医療機関との情報を共有することができた。事前のモニタリングにより、保護者の思いを確認できたことで訪問時に配慮事項に留意し保護者の心に寄り添った支援が展開できたことは連携の効果によるものと思われる。毎回、保護者同席によるカンファレンスを行い、保護者側の思いを確認しながら次への課題を明確にすることができた。支援途中で終結となったケースに関しては、健康推進課や発達相談センターと同様の評価として報告をすることができ、改めて関係機関との連携の必要性を感じた。

③ 専門性の向上

個々の特性を理解し、集団の中での個別対応をする園もあったが、保育の流れに沿うための個別対応になっている園も見受けられた。支援を必要としている園においては、発達支援の支援方法を展開しやすかったが、園側の体制や担任の思いが強い場合には、支援方法の調整に難しさを感じた。園の方針を尊重しつつもより保育現場の現状を的確にとらえた具体的な提案が必要であり、双方が納得できる見取りと知識、実践力を高め、細やかな配慮で柔軟に対応していくことが今後も課題である。

◎ 考察・まとめ

支援を受け入れる環境は各園によって様々であった。支援を必要とし特性に配慮ができた園では、対象児も保育集団に順応して生活することができた。私立幼稚園では、双子のケースでも副担任は1名であり、特性や行動パターンが異なる2人を集団の中で支援していくには難しい状況であったが、園全体でフォロー体制を作ることにより実践に活かすことができた。毎回カンファレンスを行うことは、保護者と園の職員が具体的に話し合う場となり、お互いが理解し合うことができたと感じる。話し合った課題を紙面に記載しその場で保護者と共有することができ、家庭での取り組みを明確にできた。保護者、園、訪問事業所のそれぞれの立場として共通の視点で取り組むことができ、一定の効果が得られたように思う。

平成30年度 と も い き 宝 池 慈 光 事 業 報 告 書

1. 施設の構成 生活介護事業 定員 20名 契約利用者数 25名  
 《職員》 管理者 サービス管理責任者 主任支援員 リーダー支援員  
 支援員 看護師

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
上田市	20	20	21	21	21	21	21	21	21	20	20	20	247
東御市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
千曲市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
坂城町	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
合計	25	25	26	26	26	26	26	26	26	25	25	25	307
延べ人数	444	480	495	493	458	445	519	450	402	416	392	450	5,444
開所日数	24	24	26	25	22	23	26	24	23	23	23	25	288
1日平均	18.5	20.0	19.0	19.7	20.8	19.3	20.0	18.8	17.5	18.1	17.0	18.0	18.9
利用率	93%	100%	95%	99%	104%	97%	100%	94%	88%	91%	85%	90%	95%

3. 入退所の状況

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
入所	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
退所	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1

4. 年間行事実施状況

月	内容
4	宝池親の会総会・お花見外出・上小スポーツ大会・誕生日会
5	花まつり・希望外出・健康診断・誕生日会
6	宝池親の会家族会・誕生日会・ほのぼの市
7	魂まつり・誕生日会・上田養護学校事業所説明会
8	夏祭り・誕生日会
9	誕生日会
10	てとてと市・宝池親の会家族会・希望外出・誕生日会・ハロウィン
11	誕生日会
12	忘年会・誕生日会
1	新年会・誕生日会・まゆだま作り・どんど焼き
2	涅槃会・AED講習会・誕生日会
3	宝池親の会役員会・慰労会・誕生日会・ひな祭り

## 5. 重点目標の反省

### ◎ 「個別支援計画に基づき利用者が活躍できる機会と場所の提供」

30年度は法人事例検討会にて発表の機会を与えられ職員が一丸となって取り組んだ。事例を共有し、検討を重ねて支援の方向性・職員の意識変化が見えてきたことに得るものを感じた。小集団や個別化・支援の継続・家族との連携ということが重要なポイントになるとの助言を頂いた。また、知障協主催の自閉症セミナーに参加し、外部講師からのスーパーバイズを受けた。職員が正確な情報を共有することで支援に自信がついた。引き続きスーパーバイズを頂きながら、更なる研鑽を積んでいきたい。

### ◎ 「関係機関連携における家族支援の充実」

利用者を取り巻く状況は日々変化している。ご家族の高齢化や利用者本人の状態の変化により、緊急対応を要するケースがあった。日常の状態を確認・把握しておくことは当然のことであるが、将来に向けたセーフティーネットの構築を関係機関と進め方向性を検討しておくことが大きな課題であると考え。日頃からの定期的な短期入所利用を勧め、入所施設での顔なじみを作ることや、他の施設に慣れていくといった関係・環境を形成していくことで緊急時の本人への負担を軽減させるとともに、ご家族に安心を与えられることと思う。ご家族の利用者に対する思いの深さには敬服するが、今後においても同様の緊急なケースが起きた際には迅速な対応ができるよう支援内容・提供方法を明確にしておく必要がある。

### ◎ 「支援記録の充実と効果的な活用」

30年度は、好ましい表現の標準化に法人全体で取り組んできた。また、個別支援計画に沿った支援内容と経過を的確に記録し全職員で確認をすることにより、支援内容の充実に努めた。今後は、根拠に基づく記録の整備が課題となっていく。

## 6. 利用相談

上田養護学校高等部より卒業後の進路相談として、事業所見学や実習受け入れを進路指導主事と連携し実施してきた。慈光での日中活動利用ではないが、法人内の入所施設につながったケース、他事業所からの移行利用や併行利用となる利用者が徐々に増えてきている。一方で、利用者本人やご家族の体調変化等により継続した利用が困難になるといったケースも出てきている。今後、利用者の減少が懸念されるため、養護学校卒業の方を含めた日中支援を必要としている方の情報を積極的に収集し、新規利用者を受け入れていきたい。

## 7. 健康・安全

各種マニュアル（保健・危機管理・要望等解決・虐待防止）の整備をすすめ、実動につなげられるものとなった。特に、感染症予防対策（ノロウイルス・インフルエンザ等）に力を入れ、利用者の突然の状態変化に備え、実際の場面に沿った模擬訓練に取り組んだ。

## 8. 職員研修

長野県及び長野県知的障がい福祉協会主催の研修会、法人内研修（専門研修・中堅職員研修・事例検討会）、事業所内研修（リスク研修・虐待防止研修・苦情対応システム研修・感染症対応研修）へ参加した。また、長野県主催の「障がい者虐待防止・権利擁護研修」において、現場での伝達研修の実施及び報告が求められており、3回の研修を実施し職員間での周知徹底を図った。

平成30年度 ともいき宝池和順 事業報告書

1. 施設の構成 生活介護事業 定員 30名  
 《職員》 所 長 サービス管理責任者 主任支援員 支援員 看護師 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
上田市	32	32	32	32	31	31	31	31	31	31	31	31	376
千曲市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
東御市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
坂城町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	14
合計	36	36	36	36	35	35	35	35	35	35	36	36	426
延べ数	703	716	740	728	625	631	730	693	633	633	653	693	8,178
開設日数	24	24	26	25	22	23	26	24	23	23	23	25	288

3. 入退所の状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
退所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

4. 年間行事実施状況

月	内 容
4	宝池親の会総会、春のお茶会
5	花まつり、希望外出①（ふれあいスポーツ広場）、各種健康診断
6	宝池親の会家族会、希望外出②（カラオケと外食）、ほのぼの市
7	魂まつり
9	希望外出③（佐久パラダ）、ナイスハート、ふれあい広場
10	てととと市、秋のお茶会、宝池親の会家族会
11	希望外出④（ボウリングと外食）、新田青年祭、家族会交流会、 上田第三中学校交流
12	利用者忘年会
1	新年のお茶会（初詣）、ボランティア交流会
2	涅槃会
3	年度末慰労会

5. 職員研修

長野県及び県知的障がい福祉協会主催各種研修会、法人内研修、救急救命研修（AED）  
 長野県社会福祉協議会主催各種研修会、事業所内研修

6. 生産活動種目及び実績

① 作業種目

受託生産	工業用紙袋加工作業	《鈴与マタイ株》
	箱折り作業	《丸福株、コムパック株》
	土産用菓子箱詰め作業	《豊上東山観光株》
	ボール洗浄作業（ボールプール用）	《有モードテラ》
自主生産	味遊カフェ営業、道の駅や直売所での委託販売	
	珈琲焙煎作業、クッキー製菓作業（販売・配達）	

② 作業実績

◎収入

受託作業	2,554,093 円
自主生産	13,259,970 円
合計	15,814,063 円

◎支出

作業工賃	6,572,003 円
諸経費	9,242,060 円
合計	15,814,063 円



## 7. 支援結果及び課題 ( 『 』内30年度重点目標 )

### ① 『記録のさらなる充実』

ミスヘルパーでのケース記録の入力については支援業務の一つとしてかなり定着してきているが、記録内容には引き続き課題が残る状況にある。毎月実施している個別支援会議において、利用者の想いや支援内容の検討をするためにこのツールは非常に有効な手段である。他の職員が入力した記録の閲覧や、内容の周知方法に課題は残っているが、常に変化していく利用者のタイムリーな情報を共有するために、全職員の共通理解のもと今後もミスヘルパーを活用し、支援を実施していく。

### ② 『生産活動の可視化と情報共有』

味遊カフェでのかつどうについては、利用者一人ひとりが主役になれる場として、関わる利用者の生きがいになっている。コーヒーを淹れお役様に提供したり、自動焙煎機の操作、コーヒー豆の商品づくり、プリン等の商品づくり、接客といった作業種の広がりも魅力の一つである。また、カフェの清掃やPOP作成等により関わることでできる利用者が増えているため、今後もより多くの利用者に関われるよう作業種を増やしていきたい。衛生面においては、個々によって意識の差があるため、なぜ必要なのかを様々な方法で丁寧に説明しながら、さらに意識付けていく必要がある。

気まぐれ屋新田においても、誰もが主役になれる機会を保障し、利用者のありのままの姿が地域に受け入れられ、地域との貴重なつながりの場となっている。利用者にとっても初めての経験となるものが多くあり、日常生活に良い変化が生じた利用者も見られた。

作業種毎に、一日の流れや作業分担についての可視化を進めてきた。その結果、一つひとつの作業に見通しを持って行うことができ、利用者の不安を軽減させることにつながった。今後も情報の提供方法に配慮し、実施していきたい。

### ③ 『生活支援活動の充実、家族と地域との連携』

新田地区で開催している文化祭や味遊カフェギャラリー、公民館、知障協主催の福祉大会等の機会に利用者の作品を展示し、地域の方たちに見ていただくことにより地域との交流の場を提供することができた。さらにてとと市の開催により、今まで以上に多くの方と関わることができ、利用者皆さんの張り合いになっているとともにご家族の方にも喜んでいただいているため継続していきたい。

### ④ 『法令遵守と守秘義務の堅持』

サービス業務管理委員会にて作成された法令遵守マニュアルについて、法人全体の研修会を職員皆が受け、理解を深めることができた。研修はあくまで入り口であり、今後もさらなる自己の学習を通しての積み重ねが必要となる。守秘義務の大切さについては、引き続き多くの職員が理解しそれに基づいて支援を実施していると感じられるが、日々の精進が改めて重要と認識した。

## 8. リスク・健康・安全管理

利用者の日々の通所経路については、安全に通所できるように支援及び見守り、必要に応じて同行を継続して実施している。

台風や豪雨、大雪等の気象情報を的確に入手し、事業所での適切な対応に併せてご家族の協力もいただきながら、安全な通所支援・事業所運営に心掛けている。

感染症対策の徹底及び見直しにより、予防に対しての衛生管理に努めた。

各種健康診断を実施し、その結果を受けてご家族に受診をすすめた。

## 9. その他

昨年に引き続き、上田第三中学校との交流会を年間を通して複数回に渡って開催することができた。同じ地域に生活する者として互いを理解し合い、共生していけるよう今後も積極的に開催していきたい。

地域に開かれた事業所としてのアピールについては引き続き行い、運営面の視点も意識して新規開拓も含めた利用者の利用促進につなげていく。各関係機関とも連携を密に図り、社会のニーズ等にアンテナを高くしていく。

平成30年度 ともいきライフ 月影 事業報告書

1. 施設の構成 障害者支援施設 (生活介護) 定員 60 名  
 (施設入所支援) 定員 50 名  
 (短期入所) 定員 6 名

《職員》 管理者 主査 サービス管理責任者 リーダー 支援員  
 主査看護師 栄養士 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

市町村\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	22	22	22	22	23	23	23	22	22	22	23	23	269
東御市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	21
長野市	6	6	6	6	5	5	5	5	5	6	6	6	67
須坂市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
飯山市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
千曲市	12	12	12	12	12	12	12	12	13	13	13	13	148
坂城町	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
小諸市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
佐久市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
諏訪市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
原村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
松本市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
小谷村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
木島平村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
青木村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	67	67	67	67	67	67	67	66	67	67	68	68	805
延べ数 (生活介護)	1,358	1,395	1,364	1,378	1,309	1,286	1,374	1,322	1,347	1,360	1,241	1,394	16,128
延べ数 (施設入所支援)	1,486	1,518	1,490	1,500	1,420	1,430	1,504	1,458	1,461	1,442	1,396	1,531	17,636

3. 入退所の状況

\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	3
	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
退所	-	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	3
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1

上段：施設入所支援 下段：生活介護（在宅）

4. 短期入所事業の状況（月別利用延べ人数）

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
成人	79	76	77	136	62	96	75	89	81	55	52	69	947
児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	79	76	77	136	62	96	75	89	81	55	52	69	947

5. 実施した生産活動等支援種目

作業・・・園芸作業、農作業、小牧山霊園作業、上田プラスチック作業等  
 その他・・・創作活動、リハビリ支援、歩行支援、地域交流活動、手芸、調理訓練等

## 6. 年間行事実施状況

- 4月・・・村上保育園入園式、村上小学校入学式、坂城幼稚園入園式、グループお花見、月礼会
- 5月・・・坂城町こどもフェスティバル、長野県障がい者スポーツ大会、ハローアニマル交流グループ食事会、坂城町手をつなぐ育成会総会、訪問リハビリ、健康診断
- 6月・・・グループお花見会、わくわくランチ、村上小学校運動会、上平区敬老会村上保育園交流会、上平区サポーター会議、村上小学校交流会、知障協就職ジョブマッチング
- 7月・・・月影家族部会宿泊研修会、魂まつり、グループ外出、訪問リハビリ、村上小学校交流会、北信支部視察研修会、月影夕涼み会、知障協施設長研修
- 8月・・・坂城どんどん、月礼会、月影家族部会、北信支部代表者会
- 9月・・・北信支部レクリエーション、月影部会日帰り旅行、グループ外出、月礼会長野県障がい者スポーツ大会
- 10月・・・坂城町レクリエーション、坂城町ふれあいの集い、月影まつり
- 11月・・・村上保育園交流、月影ぽっぽ展、知障協福祉大会（上小）、訪問リハビリ、月礼会
- 12月・・・上平区公民館総会、坂城町町民大会、月影忘年会、月影家族部会、北信支部代表者会
- 1月・・・上平区民新年総会、グループ食事会、ハローアニマル交流
- 2月・・・北信支部代表者会、利用者自治会選挙、訪問リハビリ、涅槃会
- 3月・・・グループ外出、村上小学校卒業式、村上保育園卒園式、坂城幼稚園卒園式

## 7. 職員研修

- 法人外研修（自閉症セミナー、支援スタッフ部会、障がい者施設支援部会、施設長研修会、保健部会、食事支援部会）
- 法人内研修（専門研修、初任者研修、中堅職員研修、リーダー主任研修、他施設研修）
- 施設内研修（リスク研修、虐待防止伝達研修、苦情システム対応研修、メンタルヘルス研修）

## 8. 支援結果及び課題（『 』内、30年度重点目標）

### ◎『利用者の意思決定の確立』

毎月実施しているグループ会議や全体職員会議を通して、利用者の思いや願いを確認しながら、常に安全に配慮しながら、単独ではなくチームワークを重視して支援を展開してきた。農作業においては、作物の成長を実感しながら収穫を楽しみにされるなど、外へ出る機会をつくることにより、皆の励みや笑顔を引き出すことにもつなげられた。創作活動では、利用者が日々の活動の中で作り上げた作品を、地域の方等に見ていただけるよう職員間で検討し、作品展（ぽっぽ展）や、月影まつりといった機会に展示、発表することができた。反面、小集団での生活をしたいといった希望のある方への対応に関しては未達成の部分もあった。

### ◎『個別支援計画書の充実』

相談支援専門員におけるサービス等利用計画の聞き取りに、支援員も参加することで、利用者への聞き取りの専門的スキルや重要性を知る機会となり、利用計画やモニタリングからの支援の連携を意識することができるようになった。また、行動障害の利用者に対しては、日々の記録の充実（行動分析）を図るためケース記録（ミスヘルパー）を有効活用し、必要に応じて専門職（看護師、栄養士等）を交えた話し合いを実施することで、支援を組み立てるサイクル（PDCA）が、徐々にではあるが意識できるようになってきた。引き続き、より良い支援が提供できるよう研鑽を積んでいきたい。

### ◎『ご家族への支援及び関係性の維持』

利用者のご家族、事業所との関係性を維持させていくために、年3回の家族部会活動や年4回の月礼会（環境整備）の開催、年に1回ではあるが宿泊研修や日帰り旅行を企画実施してきた。また、利用者の日々の様子を見ていただけるよう、月影通信の発行や連絡票（事業所での様子等を報告）の送付、個別支援計画書の送付を実施してきた。さらに、定期的な活動以外にも、月影まつりや夕涼み会を通して、関わることでできる機会を提供している。ご家族の高齢化等により帰省が難しい方については、家族と過ごせるよう外出支援を実施したり、日帰り帰省等個々に合わせた対応を実施してきた。

平成30年度 と も い き ラ イ フ 住 吉 事 業 報 告 書

1. 施設の構成 障害者支援施設 (生活介護) 定員 30 名  
 (施設入所支援) 定員 30 名  
 (短期入所) 定員 4 名

《職員》 管理者 サービス管理責任者 主任支援員 支援員 看護師  
 管理栄養士 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

市町村\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	24	24	24	24	24	24	24	24	24	23	24	24	287
東御市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
佐久市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
長野市	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	8
安曇野市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
佐久穂町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
辰野町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
筑北村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	32	32	32	32	32	32	32	32	31	30	31	31	379
延べ数 (生活介護)	669	698	674	701	661	634	682	667	681	654	592	671	7,984
延べ数 (施設入所支援)	914	938	924	953	905	869	922	900	895	874	838	907	10,839

3. 入退所の状況

\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	2
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
退所	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	1	3
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0

上段：施設入所支援 下段：生活介護（在宅）

4. 短期入所事業の状況（月別利用延べ人員）

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
成人	81	105	107	93	72	77	101	91	73	40	49	48	937
児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	81	105	107	93	72	77	101	91	73	40	49	48	937

5. 実施した作業支援種目

作業・・・園芸作業、椎茸作業、農作業

その他・・・リハビリ支援、歩行支援、高齢者グループ支援、食事作り、おやつ作り、  
 足浴支援、絵手紙活動、地域交流活動

6. 職員研修

法人内研修～初任者研修・初任者フォロー研修・中堅職員研修・中堅職員フォロー研修

施設内研修～事例検討会・感染症等の予防及び対応について・虐待防止研修会

施設外研修（長野県知障協主催各種研修会・県及び社協主催各種研修会・その他）

『知障協』精神科領域実践支援セミナー・自閉症支援セミナー

『その他』苦情対応システム研修・長野県障がい者虐待防止、権利擁護研修  
 防犯対策研修会

## 7. 年間行事実施状況

月	内 容
4	家族部会研修会・グループ花見外出
5	伊勢山自治会ふれあい会食会・甘露保育園芋植え交流会・住吉家族部会環境整備・御詠歌の会 御代田町ふれあい広場・神科地区社会福祉協議会総会・神科小職員交流会
6	ほのぼの市・岩門ふれあい会研修会・神科小PTA交流会・宝池親の会家族会・歯科検診 心電図・内科検診・眼科検診・長野大学生施設見学
7	豊殿小4年生交流・婦人科検診・乳房検診・神科地区防犯・防災協議会
8	夏祭り・住吉家族部会・地域におけるリハビリ講習会・伊勢山長寿会日帰り旅行・防災設備点検 伊勢山ふれあいすいとんの会
9	神科地区社会福祉協議会住民大会・伊勢山地区敬老会・神科小3年生交流・住吉まつり 住吉家族部会環境整備
10	宝池親の会家族会・小諸厚生病院祭・菅平祭り・千曲荘病院祭・高齢者文化祭・上田市環境フェア 月影まつり・甘露保育園芋掘り交流・神科小まつり・豊殿小学校3年生交流
11	総合防災訓練・リハビリ講習会・住吉家族会研修会・立科町社協祭り・神科小交流会
12	ともいきライフ住吉忘年会・住吉家族部会
1	繭玉づくり・どんど焼き
3	住吉家族部会総会・リハビリ講習会

：月単位行事 避難訓練・誕生日会・体重血圧測定・茶道・絵手紙・個別外出支援・その他

## 8. 支援結果及び課題（『 』内、30年度重点目標）

### ◎『生活介護事業及び施設入所支援事業の充実』

施設入所利用者の最高年齢が82歳、平均年齢が58.0歳となっている。障害支援区分の平均については5.13となっている。利用者の高齢化が進んでおり、障害者支援だけではなく、医療機関との密な連携が不可欠であり、高齢者支援の充実のために介護技術・知識の向上も必要となっている。また同時に行動障害を併せ持った利用者との共生といった点においては課題であり、全ての利用者が安心・安全に過ごせるよう環境設定・配慮が必要である。

日中活動においては、『生産活動』や『創作活動』を中心に、園芸や椎茸栽培などの農作業や、歩行・リハビリ・食事やおやつ作り・公民館での絵手紙教室への参加など、様々な活動を実施し満足感が得られるように支援を提供してきた。利用者一人ひとりが役割を担うことで、達成感・満足感を感じられるよう今後も支援を進めていきたい。

### ◎『個別支援計画書の内容の充実および計画の実行・評価』

相談支援専門員との連携を図りながら、サービス等利用計画を基に個別支援計画を作成し、実行に努めている。しかし支援計画の現状を踏まえると、利用者本人目線での長期・短期目標の設定、月毎の目標設定において具体性に欠けてしまい、月・半期・1年での評価に客観性が乏しくなってしまう。今後は、目標設定におけるアセスメントの標準化、具体的な目標設定、職員の主観ではなく客観性を保ちながら質の向上に努めていきたい。

### ◎『家族への支援』

利用者の高齢化だけでなく、ご家族の高齢化や保護者の代替わり（兄弟または甥・姪等）の実状がある。家族部会等への参加も年々少なくなってきたり、ご家族との連携が薄くなりがちであるが、関係性を保っていく関わりは継続していきたい。また、利用者個々の将来の展望についても、ご家族の意向を確認しておくことで利用者にとってより良い生活環境を保ち安心・安全へとつなげていきたい。その他にも、ご家族（親）自身の状態の変化に伴い、生活が不安定になりうるケースが出てきている。そのため利用者だけでなく、ご家族への支援・サポートも今後さらに重要になってきているため、関係機関との連携を図っていきたい。

### ◎『施設（事業所内外）と自己評価・第三者評価への取り組みを図る』

様々な研修に参加させていただくことで、職員個々の知識や技術のレベルは確実に向上している。しかし、研修等で得た知識をチームとして活かすための般化はまだ不十分な状況である。今後もチームとして支援に取り組むということの意識付けを図りながら、伝達研修などの機会を設け、チーム力の向上につなげていきたい。また、今後の第三者評価の受審に向けて自己評価を実施する中で、第三者評価を受審する意味合いをしっかりと認識しながら事業所のサービス向上につなげていきたい。

# 平成30年度 上田市母子寮 事業報告書

## 1. 施設の構成 定員20世帯

《職員》 施設長 主査 主任 母子支援員 少年指導員 個別対応職員 心理担当職員

## 2. 地区別初日在籍世帯数（上段） 及び人員（下段）

地区\月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	世帯	5	5	5	5	6	5	5	5	5	4	4	4	58
	人数	14	14	14	13	15	13	13	13	13	11	11	11	155
その他	世帯	12	11	13	12	11	12	11	12	11	11	10	11	137
	人数	29	27	31	29	26	29	26	28	26	26	24	29	330
計	世帯	17	16	18	17	17	17	16	17	16	15	14	15	195
	人数	43	41	45	42	41	42	39	41	39	37	35	40	485

### その他内訳

福事 務 社所	世帯	安曇野市	19	東御市	12	長野市	12	大町市	4	茅野市	12	松本市	1
	人数	41	24	36	12	24	3						
甲府市	12	都留市	12	高崎市	11	千葉市	8	藤岡市	12	佐野市	12	栃木市	10
	60	24	22	16	24	24	20						

## 3. 入退所世帯の状況（月途中の入退所あり）

\月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	世帯	0	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	2	8
退所	世帯	1	0	2	1	1	1	0	1	1	1	0	5	14

## 4. 年間行事実施状況

月	内 容	月	内 容
4	子ども会（お花見）・料理教室	10	子ども会（てとてと市へ）
5	こいのぼりお楽しみ会（お抹茶会）	11	親子遠足
6	料理教室	12	餅つき年末お楽しみ会・小笠原さんお茶会
7	夏休み子ども会活動・子どもの料理教室	1	子ども会（新年お楽しみ会）
8	七夕祭り親睦会	2	節分豆まき・子どもの料理教室
9		3	子ども会（ひな祭りお楽しみ会）・進級お祝い会

避難訓練は、想定を変えて毎月実施。消防署員による実施指導（日曜日・年1回）

消防署への通報訓練（年2回）

その他の行事（運営委員会活動会議…年2回、子ども会会議…年3回 等）

## 5. 職員研修

（法人内研修会）

- ・応用行動分析研修会 2回
- ・事例検討会 8回
- ・フォロー研修 2回
- ・中堅職員研修 2回
- ・リスク虐待防止研修会 2回
- ・要望等解決例会
- ・発達障がいについて基礎知識を学ぶ

（法人外部研修会）

- ・H30年度相談援助スキルアップ研修
- ・応用行動分析を学ぼう（基礎理論） 3回
- ・第58回関東ブロック母子生活支援施設研究協議会
- ・母子生活支援施設の役割と連携の可能性
- ・H30年度苦情対応システム研修会
- ・長野県母子生活支援施設連盟研修会
- ・H30年度感染症食中毒等の発生及びまん延防止に係る研修会
- ・H30年度ファミリーソーシャルワーク研修会
- ・H30年度社会福祉施設等の防火防災対策に係る研修会
- ・H30年度テーマ研修「配偶者間暴力をめぐって」

6. 施設設備

- ・寮庭遊具点検、修理
- ・ 1階男女浴室ガス風呂釜取替工事
- ・ 2、3階廊下ガラスフィルム貼付工事
- ・ 居室壁クロス貼り（205、305、306号室）

7. 援助結果 ～重点目標の結果及び課題～

○平成30年度は、緊急避難2世帯を含む利用世帯27世帯67人であった。うちDV被害者は21世帯51人（76%）、経済的理由他は6世帯16人（24%）であった。

- ① アフターケア支援計画を作成し、退所後も地域社会での営みを見守り必要に応じて相談や援助を行ってきた。平成29年度からの登録は41世帯（内、平成30年度は33世帯を支援）。来寮による対応は26世帯。電話相談は7世帯であった。

【内容】

通院時の同行支援

- ・ 卵巣腫瘍摘出手術時の子ども対応（児相一時預かり）及び受診時付添
- ・ 子宮脱のため受診同行支援（上田市外医療機関）

外国籍の母の支援

- ・ 子どもの運転免許の申請及び自衛隊入隊のための諸手続き支援

同伴児が成長し大人になり相談支援

- ・ 退所後、母が癌で他界。継父との生活と自分の進学について
- ・ 母親になり子育ての悩み（子の発達障がい）。虐待を受けて育ったので自分も虐待をしてしまうのではという不安に対する相談支援
- ・ 結婚前提で6年交際していたが、妊娠を機に疎遠になってしまいシングルマザーで働きながらの子育ての不安について

- ② 上田市母子寮内に子どもの居場所づくりとして、外部の高校数学教諭による学習ボランティアを毎月2～3回土曜日の午後に開催。退所した小学生が登校時に来寮し在寮中の小学生とともに登校、下校後には母子寮にて学習支援を受け、母の迎えまで過ごすといった対応の実施。学校の長期休業時に子ども会活動に参加して過ごすといった活動を実施してきた。

- ③ 周産期の妊婦を積極的に受け入れ切れ目のない支援に心掛けた。平成30年度は3名の特定妊婦を受け入れた。
- ・ 知的障がいがある方で妊娠に気づいたが、グループホームの職員に相談せず、出産の間際で相談し、その3日後に男児を出産したが、生活環境が整わず母子分離を図る。
  - ・ 6ヶ月の同伴児がいる10代の特定妊婦受け入れ。妊娠11週で受診するが、9週から胎児が育っておらず堕胎手術を行う。
  - ・ 単身の特定妊婦の受け入れ。親族から金銭の無心と堕胎を強要されたことにより避難。その後、2,640gの男児を出産し母子での入所となる。また、平成30年度に長野県主催の「にんしん葛藤相談のプロジェクト」が設置され、「にんしんSOSながの」と命名し、平成31年3月29日からうえだみなみ乳児院が相談を開始している。母子生活支援施設は安全な住環境と位置付けられている。

- ④ 支援の資質向上のため、関東ブロック地区の研修会に参加し3年連続で当施設の活動内容を発表したことにより、支援力が評価された。結果、平成30年度は甲府市・都留市・千葉市・高崎市・藤岡市・栃木市・佐野市の県外7市よりDV被害者世帯を受け入れている。

8. 寄付物品

- ・ ランドセル2個 (株)協和 協和ふわりい基金
- ・ 食料品(主に乾物類) (株)カーブスジャパンフードドライブ

【資料】

	(退所14世帯の状況)	(緊急一時受け入れの状況)	(新規入所 8世帯の状況)
親元へ	2世帯	DVによるもの 2世帯	DVによるもの 6世帯
他の福祉施設へ	4世帯	実利用者人数 4人	経済的によるもの 1世帯
民間アパートの確保	6世帯	実利用日数 46日	その他 1世帯
結婚	1世帯	延利用人数 56人	
夫のもとへ	1世帯		

(別紙)

平成30年度 上田市母子寮 心理療法実績報告書

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
心理療法	8	11	14	16	9	8	9	9	6	6	4	5	105
個別療法	8	11	14	16	9	8	9	9	6	6	4	5	105
SST (個別、グループ)	1	6	7	4	3	5	2	4	6	4	7	0	49
(小計)	9	17	21	20	12	13	11	13	12	10	11	5	154
生活場面面接	22	23	32	42	23	22	22	28	18	26	16	20	294
心理検査	2	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	7
施設職員等 への助言	4	4	4	4	3	3	0	4	3	4	4	4	41
処遇検討会議 への出席	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
その他 学習支援・集団活動	5	2	8	9	9	4	1	3	3	1	4	2	51
(合計)	43	47	65	76	48	42	34	50	36	41	35	33	550
他機関への紹介 情報提供	1	1	1	3	0	1	1	2	0	1	2	1	14

① 心理療法

今年度は昨年度に比べて件数としては減少した。しかし、継続性や回数の確保といった点で昨年度よりは改善した状態で提供できたように思う。やはり、継続して回数を重ねていくことで築くことのできる関係性や見えてくるものがあると感じた。ただ、ケースによっては回数が十分ではない状況も生じていたため、次年度は留意していきたい。

② 集団活動

集団活動として、グループで行う小学生のSSTや表現活動を実施した。SSTはスタート時は順調であったが、後半にかけて少しマンネリ化してきてしまった際の対応方法に工夫が足りなかったため、欠席者が増えるという結果になった。表現活動については、昨年度と実施する時間を変更し、内容の自由度を変えてみた。内容によっては参加者がいないこともあり、参加するメンバーも固定された。

③ 学習支援

学校からの宿題を支援する事に終始した。宿題を見るということだけでも効果はあるため、その点においては評価ができる。一方で、学習に困難のある子どもにあっては宿題をこなすだけで精一杯の状態であったため、心にゆとりを持った学びや勉強の面白さの発見には貢献が少なかったように思う。しかし、一人ひとりに十分な時間をかけて学習支援を行うことは現状では難しい。

④ カフェ

平成29年度より本格的に始めた活動であるが、今年度は月1回開催するかどうかという状況であった。たまにしか開催されない活動となると、利用者からの期待も下がってしまうこともあり、利用も低調であった。次年度は、実施の方法や目的を見直し、利用者にとって有益と思えるような工夫をしたい。

<総括>

今年度の実施件数は、昨年度との単純比較とすると-230件であった。対象となる利用者が昨年度よりも少なかったためその要因が一番大きいのが、通常業務の忙しさとそれに応じたスケジュール管理の甘さも要因としてある。次年度は、利用者個々の必要に応じて機会を提供できるように業務を仕分けて取り組んでいきたい。



## 1. 事業所の構成

- ◎新田ホーム（定員 3名） 利用者男性 3名（上田市 2名 千曲市 1名）  
 ◎和ホーム（定員 3名） 利用者女性 3名（上田市 2名 千曲市 1名）  
 《職員》 ホーム長 サービス管理責任者 生活支援員 世話人

## 2. 利用の状況

平成30年度は入退所となった利用者がいなかったため、年間を通して定員6名に対して実員6名での推移であった。男性利用者については、平均年齢が46歳、平均障害支援区分が3.3であった。女性利用者については、平均年齢が65歳、平均障害支援区分が4.0であった。

## 3. 生活費用（毎月の一人当たりの負担額）

	新田ホーム	和ホーム	備考
生活費	35,000円	35,000円	食費・光熱水費等
家賃	10,000円	13,750円	旧定員割（4名）

## 4. 利用者の傾向

当ホームは閑静な住宅地に位置しており、交通等のアクセスに便利な環境に設置されている。ホームの近くには大型のショッピングセンターや信州上田医療センターといった医療機関があり、それにつながるバス路線に隣接しているため交通量は益々多くなっている。視覚に障害のある利用者が2名おり、外出時に転倒したり交通事故に遭遇することのないように日中活動事業所への通所時等に付き添うなど安全に配慮した支援を行っている。現在、6名中5名が法人内の事業所に通所しており、ホームは家庭のように日々の疲れを癒す場となっている。身体機能の変化や認知機能の低下といった高齢化に伴う諸課題については、丁寧に対応をしてくれているが、この傾向は今後も続くものと思われる。昨年度に新規利用となった若い利用者は、自転車通勤で一般就労をしている。荒天のような自転車通勤が困難な気象状況の際には送迎といった通勤に対する支援も行った。自転車の事故が全国でも問題になっており、損害賠償等が発生してしまう場合に備えて、自転車保険に加入することを検討していきたい。

## 5. 支援結果及び課題（重点目標の反省）

『グループホームが利用者本人にとって安らぎのある場所であるとともに、暮らしの拠点として一人ひとりの大切な時間を積み上げられる場所になるように努力する。』

グループホームは地域生活の拠点であるため、支援における視点はあくまでも本人主体の地域での暮らしという点にある。個人の買い物は比較的自由にさせていただいており、それぞれが週末などに出掛けている。そのため、行きつけのような店舗も増えてきている。購入したいものが大型の店舗にしかない場合には、希望に応じて同行支援も行っている。障がいによって、希望を出すことが難しい場合もあるため、一緒に出掛けて本人目線で選ぶことができるようなサポートも行っている。小集団ではあるが、利用者同士の間関係の調整という課題には悩むことが多かった。「他人の利益が自分の喜びになる」といった価値観から依然として遠い位置にあると思わざるを得ない。通所事業所の職員とも十分な情報共有を行い、生活全般の進展の中で、関係性の改善に努めてまいりたい。

『生活習慣病の予防に努めるとともに、日常的な保健予防の視点を充実させ、食生活に関連した学びを利用者とともに進めていく。』

日々の生活の中で思わぬ怪我や病気の罹患に対しては、初期段階の対応が非常に重要であり、迅速及び的確な対処が必要なる。症状等発生の連絡を受けた際には、ありのままの状態を把握し、原因等を分析し判断した上で医療機関の受診につなげるようにしてきた。受診時に医療機関に症状を客観的に報告できるよう、バイタルチェックの緒結果をデータ化し職員間で共有できるよう工夫をしてきた。食生活の場面においては、一律的な提供と個別的な配慮をいかに融合していくかが課題である。集団と個の支援をうまく統合させることにより、温かくて美味しい家庭的な食事を提供できるように努めてきた。キーワードは、「利用者の声に謙虚に耳を傾ける」という事と思う。糖尿病予備群においての課題は、制限されているお菓子等をこっそりと購入し食してしまうことである。解決方法は容易ではないためこの課題は継続していくものと考えられる。

『年間行事及び個別支援の実施を通じて生きがいづくりを支援していく。本年度は意識的に地域の行事・イベントへの参加を年間を通じて行う。』

「地域参加」では、自治会行事への参加を柱として実施してきた。お花見会・誕生日会・忘年会が主な行事であったが、受け入れも良くしていただき、利用者も喜んで参加することができた。また、自治会青年会にも顔を出し、「ふるまい鍋」等のおいしい食事をいただき交流を深めた。上田市全体では、ポスト真田丸で観光客が激減しており、大きな祭りの後が地域課題として残っている。市民が参加する上田わっしょいや祇園祭、上田花火大会等の地域行事はできるだけ参加することができるようにし、一緒に楽しめればよかったが、天候不順が影響して個人での参加にとどまった。

## 6. 職員の研修

上小地域障がい者施設等連絡協議会主催の「グループホーム担当者会」の研修会に参加し、他事業所の世話人との情報交換や支援のポイント確認等を話し合い、より良い支援につなげることができた。また、長野県が毎年開催している「障がい者権利擁護・虐待防止研修会」代表者が参加し、研修内容を基に伝達研修を行った。

## 7. 施設整備

ここ数年の間で、高齢者が多く在籍しているグループホームでの火災により大勢の利用者が亡くなるといった事故が頻発している。このため、避難困難者の割合が多いグループホームにはスプリンクラー等の消防設備の設置が義務化された。これに伴い当ホームでは、和ホームにスプリンクラーの設置を実施した。また、その他の日常的な修理修繕は必要に応じて対処した。

## 8. 今後の展望

ホーム全体の支援内容としては現状を維持しつつ、利用者に温かい支援が提供できるよう職員個々の資質向上を継続して図っていきたい。そのためには、職員研修は必要不可欠なものであり、利用者の個々が持っている疾患や障がいの特性をしっかりと把握したうえで、利用者の個別性と全体性をあわせて理解していくよう努めていきたい。また、利用者同士の関係性の調整においては、難しい場面も予想されるが、自己の主張を尊重しつつもお互いの折り合いをどう調整していくかが利用者にとっても課題と考えられる。

## 1. 施設の構成

《職員》 管理者兼相談支援専門員 主任兼相談支援専門員 相談支援専門員

## 2. 指定障害児相談支援 指定特定相談支援事業所の実施状況

## 【指定障害児・指定特定相談支援事業】

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施総件数	38	27	63	39	13	63	62	24	41	27	15	104	516
モニタリング・者	11	16	24	22	7	15	30	8	27	21	12	22	215
モニタリング・児	18	2	22	4	0	35	25	4	4	0	1	18	133
モニタリング計	29	18	46	26	7	50	55	12	31	21	13	40	348
計画作成・者	9	6	12	10	6	13	7	12	9	6	2	10	102
計画作成・児	0	3	5	3	0	0	0	0	1	0	0	54	66
計画作成計	9	9	17	13	6	13	7	12	10	6	2	64	168

引き続き計画の更新、モニタリングが主な業務となっている。新規での契約となる方については、蓮の音こども園の入園児・保育所等訪問支援の利用児が主となっている。

## 3. タイムケア事業実施状況

## 【タイムケア事業実績】

タイムケア登録者 20名

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
29年度(人数)	8	7	7	8	7	9	6	8	9	8	6	6	89
30年度(人数)	2	3	3	2	2	3	3	2	5	3	6	3	37
比較(30-29)	-6	-4	-4	-6	-5	-6	-3	-6	-4	-5	0	-3	-52

タイムケア事業に関しては、平成29年度は延べ89名が利用し 375.5時間の利用であったのに対し、平成30年度は延べ37名が利用し124.5時間の利用であった。

## 4. 相談支援の継続実施

平成30年度は、成人の方が162名、児童の方が77名(蓮の音こども園40名、保育所等訪問支援8名、稲荷山医療福祉センター3名、放課後等デイサービス14名、来年度蓮の音こども園入園児12名)の計画更新及びモニタリングを実施した。計画相談は定期的実施するものであり、月ごとの実績は上記の表のとおりとなっている。

定期的なモニタリング、計画更新以外の相談の対応としては、利用者本人の高齢化や怪我等によるニーズの変化から、他の福祉サービスや施設入所支援、共同生活援助等への利用サービス内容の変更、保育所等訪問支援事業の利用開始希望などがあった。

今後は、現在当法人の福祉サービスを利用いただいている方の高齢化に伴う施設移行等の計画相談が予想されるため、利用されている事業所との連携を密にして利用者本人の希望に沿った計画を立てていきたい。また、モニタリングの実施時期については、個別に異なるが、関係各所と連携し誤りのないよう実施してきた。平成31年度においては、さらなるきめ細やかなモニタリングが求められるようになったが、今後も徹底していきたい。

昨年度に引き続いて相談支援専門員を5名体制で進めてきたこともあり、より確実に実施できた。さらに研鑽を積み、良質な相談支援の提供に努めたいが、次年度の相談支援専門員の体制が4名となるにあたって、1人当たりの受持つ件数が非常に多くなると考えられる。そのため、外部の相談支援事業所に依頼できる案件については変更をかけている状況にある。さらに、特定相談支援事業を撤退する事業所が多く発生あり、そのフォローについてどのように対応していくかは、全ての特定相談支援事業所で検討していかなければならない大きな課題となっている。

## 5. 計画内容の質の確保

特定相談支援では、新規よりも既利用者の計画の更新、モニタリングが主業務となっている。サービス担当者会議（ケア会議）、関係者会議、事業所訪問などを確実に実施していくことが必要である。現在、複数の事業所を利用されている方も増えており、ケア会議の開催については各関係者が漏れることなく集って開催することにより、より丁寧な実施を継続している。引き続き利用者・ご家族の生活の質向上に寄与していくことが課題となっている。

障害児相談支援においては、主に蓮の音こども園を利用している児童であった。利用されている方本人はもちろんご家族からは、計画相談の実施というものが支援の一つとして認識され、日々の生活を振り返る機会として定着してきている。また、特に市外の方のモニタリングについても、ケア会議の実施が定着してきている。

アセスメント方法やモニタリングの設定、利用者の同意についても、より誠実な対応が求められてきている。今後も適切な実施に努めていきたい。

計画相談と各福祉サービスを提供している事業所の個別支援計画との連動が引き続き課題となっている。適切に情報を提供・共有しながらの実施につなげたい。

## 6. 地域との連携

地域共生社会の実現を考えようとの動きが強い今日において、「我が事・丸ごと」の理念、すなわち地域福祉力強化の道筋に対して、相談支援センターほっととしても各種関係機関との連携はもとより、利用者を中心に「支えるネットワーク」の構築を図ってきた。計画相談を通して、地域での多様な主体との信頼関係の構築をめざし、誠実な支援の実施、継続に努めてきた。

## 7. 記録の管理

記録については、サービス管理責任者等を中心に法人全体で積極的に取り組んでいただいております。確実に整備が進んでいる。今後も相談支援の制度や、報酬の算定方法が変化していく中で、それに適した記録を残していく必要があるため、記録方法についての検討を進めていきたい。

## 8. 法令遵守と守秘義務の堅持

日々の業務にあたって、どちらも常に意識して対応していくことと、制度学習の継続が必須と考えており、研鑽を積んでいきたい。

相談支援の実施にあたり、家庭訪問・モニタリング頻度の通知等を確認しながら市町村と協議の上、より適正な支援の見直しを常に行っている。

## 9. 職員研修

- ①法人内研修：法人事例検討会、虐待防止・権利擁護伝達研修、要望等解決委員会、地域福祉応援体制会議、法人内相談支援研修の企画・実施 等
- ②法人外研修：上小圏域ケアマネ部会、長野県知的障がい福祉協会相談支援部会 等
- ③自主研修：各種講演会や見学会 等